

JAカレッジ



発行／北海道農業協同組合学校 校友会

〒069-0834 江別市文京台東町43-1 ☎011-386-4331 FAX011-387-1715



## ごあいさつ

校友会会長 遠藤 浩一

本校友会の事業運営に当たりましては、母校であるJAカレッジをはじめ、JA北海道中央会並びに各連合会、全道の各JA、多くの会員各位のご支援とご協力を賜り心からお礼を申し上げます。

昨年度の総会にて栗林前会長の後任として会長に就任いたしましたJAいわみざわの遠藤と申します。中央会連合会OBの方々が歴代務められてきましたが、単協出身として初めて務めさせていただきますので、皆様のご協力を賜りながら微力ではございますがよろしくお願い申し上げます。

わが母校は大正10年(1921年)北海道産業組合講習所として創立し、幾多の変革を経て現在に至っております。

一方、校友会は昭和5年(1930年)8月に北海道産業組合講習所同窓会として発足し、現在北海道農業協同組合学校校友会として88年を迎え、平成32年(2020年)には90周年を迎えます。

卒業生総数は4,500名を超え全道農業と地域の発展に寄与してこれ、現在も2,500

名を超える現職が活躍されております。校友会は、各支部の活動が原点となりますので、支部長さんにはご苦勞がありますが、よろしくお願い申し上げます。

今、JAは新たな農協法のもと自ら自己改革に取り組む農協改革集中推進期間中であり、将来に向け持続できる農業経営に向けて組合員の所得向上と地域の発展にむけて取り組んでいるところです。OBの皆様が各地域でJAの応援団になっていただきながら、共に活動してまいりたいと存じます。

また活動の先導者としてJAカレッジの卒業生が役割を果たせるよう、しっかりと学べる環境を作り、校友会としても応援してまいりたいと存じます。

今後とも母校と連携しながら校友会活動が一層活発に行われるよう進めてまいりますので、会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、会員皆様のご健勝をご祈念し会長就任のご挨拶とさせていただきます。



## 平成の世を回顧して

校友会前会長 栗 林 貞 信

平成29年度定期総会役員改選により退任いたしました。前任の妻木義一会長から引継ぎ、昨年まで9年間に及ぶ在任期間中は、校友会運営に対しご協力とご支援を賜りましたこと、本校友会会報紙面をお借りして厚くお礼と感謝を申し上げます。

それまでも、会員相互の連携に大きく貢献してきました。会員名簿は節目節目の記念事業の一環として発行してきましたが、平成16年の個人情報保護法の制定によって、その発行が実質的に困難な事態になるなどあって、その対策の限界を痛感しました。

そうした中で、卒業期別の親睦会、懇親会を定期的で開催している期が多くあると聞き及んでいますが、こうした機会を通じて、本校友会やJAカレッジに係る情報を伝えるとともに情報を得るなどの具体的な検討が、組織活性化の糸口になりえるとみられますことから、現役員に具体的対策の検討を引継いだところであります。

いま平成という一時代が煮詰まって2019

年5月1日から新元号となりますが、われわれ同期にとっての平成、その前半にあつては、管理職として主重要な決定に参画できたこともあり、モチベーションがもっとも高揚し、充実できた一時期ではなかったかと、今は懐かしく思い返しています。

平成の世となり国際的には、ベルリンの壁が崩壊し、第二次大戦後44年続いた冷戦の終結、経済ではサプライムローンを引き金とする世界的な不況があり、また中国の台頭によるアメリカとの覇権争いが、ますます激しさをましつつあります。

そうした中であつて、本校友会は、昭和5年8月(1930年)に創立されて以来、89年目となり、まもなく90年という節目の年を迎えようとしています。旧期の52期に加え現の在校生は49期生となりますので、間もなく旧期を越えることとなります。

JAカレッジ校友会の会員の一人として、健康に留意しつつ、校友会の事業・行事に参加できるよう努めたいものです。



## 「はつらつ」として人材育成を目指して

JAカレッジ校長 神 丸 憲 明

校友会の皆様には、日頃から本校の事業運営にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成30年度の学生の就職状況ですが、第49期の卒業予定者全員がJAへの就職が決定し、4月にはJAマンとして旅立ちますが、校友会の皆様には、彼らに対し厳しく愛情あるご指導を賜りますようお願い申し

上げます。

JA確約推薦制度の活用促進等による有能な学生の確保と、寮生活を通じた人間性の豊かさ、ゼミやグループ討議の充実による社会人基礎力の養成により、JAに求められる人材を育成してまいります。

一方、役職員研修については、平成29年度の研修参加人数が過去最高の2,361名と

なり、平成30年度も概ね計画どおりとなっておりますが、今後も、参加人数のJ A間格差に取り組んでまいります。

さらに、来年度から第7次長期経営計画がスタートします。本校が1970年度に道より移管を受け、間もなく半世紀を迎えよう

としており、この5か年は事業・施設の今後のあり方について検討を開始する重要な位置づけとなります。

校友会の皆様方におかれましては、これまでと同様に、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 平成30年度 在校生から

平成30年11月寄稿



古川 蒼生

私は、オホーツクにある網走桂陽高校から江別市にあるJ Aカレッジに入学しました古川蒼生です。私の出身校からは5名の生徒と一緒に入学したので不安な気持ちは他の生徒よりも少なかったと思いますが、それでも1人で遠く離れた江別市に来ることは不安な気持ちでいっぱいだったことを思い出します。J Aカレッジでの生活で一番の魅力は寮生活だと感じます。寮生活に慣れないうちは、早く家に帰りたいとばかり

り思っていました。

ですが、入学して8か月経った今は寮生活が楽しくて仕方ないです。1年間という短い時間ではありますが、毎日一緒にいることで普通の学校の友達以上の友達をつくることができましたと感じます。一緒にいると相手の悪い面も見えてしまいましたが、良い面もたくさん知ることができました。この横のつながりは将来的にも大事なものになってくるのではと考えます。来春からそれぞれのJ Aに就職しますが、同期の仲間を大事にし地域の組合員さんから信頼されるJ A職員になっていきたいです。



清水 陸

僕は留萌高校を卒業した清水陸といいます。自分は、もともとこのJ Aカレッジに入学するという自体まったく考えていませんでした。高校の時に地元にあるJ A苫前町で内定をいただき、「来年1年間はJ Aカレッジに行って勉強してもらおう。」と参事さんに言われました。J Aカレッジに来ていろいろな年代の人がいると思っていましたが、全くそんなことはなく、自分と同じ高校を卒業したばかりの人がたくさ

んいました。そして、全寮制ということで、自分と同じく全道のJ Aに就職しようとしているたくさんの同期達と共に同じ飯を食べ、同じ風呂に入り、自分の行きたいJ Aについて語り合ったりし、共に辛いときは助け合うといった協同組合の理念である「相互扶助」を学ぶことができました。授業では、J A職員に必要な知識をたくさん身に付けることができました。この一年間は自分の人生において最も濃い一年になりました。





## 若 梶 彩 絵

J Aカレッジ学生の若梶彩絵です。出身は十勝です。私は身近に農業や農協関連の仕事をしている人がいなかったの、入学直後は勉強についていけるか不安でした。しかし、先生方の一から丁寧に指導していただいたおかげで、少しずつ分かるようになってきました。私が今まで学んだ中で一番記憶に残っているのは、資格試験の勉強です。ここで取る資格は今まで全く馴染み

のない用語が出てくるものも多かったの、初めは苦労しました。ですが、J Aカレッジには何年もの過去問があります。それを何度も解いたおかげで合格したといっても過言ではありません。この学校で取得せずに試験を受ける人は勉強の仕方が分からず苦労すると思います。資格が取得しやすいというのがこの学校に入る利点だと感じました。今後、就職が近づくにつれて様々な不安が生まれてきますが、周りの職員の方や組合員さんに信頼されるように誠実に仕事をしていこうと思っています。



## 高 田 将 吾

出身校：帯広工業高校 私が、J Aカレッジに入学して学んだことは沢山あります。

専門的な授業についてはここで学習する以外は中々ないかなと思います。元J A職員としての体験談や経験の話も聞くことができ、良い機会となっています。実習としてJ Aに出向き、現職の人がどのようなお仕事をしているのかを直で見る機会もあり、農業関連の施設の見学もできてよい経験値ともなっています。

就職も皆がJ A関連なので、意見交換や交流もしやすいというのも良いところの一つだと思います。

全寮制というのがそのメリットに繋がっていると思います。ただ、私は入学当初は寮生活には不安を抱いていました。慣れない土地、生活で知らない人ばかりとの日常になるので、どうなるのだろうとしか思っていませんでした。ただ、それはお互い様なので交友関係の苦手な私でも、意外と問題がありませんでした。1年間の寮生活は親しき仲にも礼儀有りを大事にし、色々と挑戦し楽しくがんばるのに良いところだとも思えます。

## 編 集 後 記

校友会会報を長く発行できず、事務局の勝手際を深くお詫び申し上げます。

会報発行にあたり、会長以下役員からのご挨拶とJ Aカレッジ校長様のお言葉ばかりで会員活動の御報告等記事の収集が出来ず事務局の今後の課題と認識しております。

各J Aに配置させて頂いている連絡員の情報交換もなかなか進まず、支部活動・同期会活動の情報交換の場をいかに設けるかがやはり交友会の課

題となっております。

今回は在校生から一言を頂きこの会報が会員各位に配布される頃には各J Aに就職され、新たな生活が始まっていると思います。J Aカレッジ・校友会も再来年度には節目の年となります。会員皆様の情報収集の場として会報を活用願えれば幸いです。なお、J Aカレッジホームページの「J Aカレッジ校友会会報」に掲載されております。

農協学校校友会 幹事長 高橋 英二